

13

ビックリート製品（耐腐食性）

ビックリート製品とは防菌剤(ビック剤)を混入した防菌コンクリート(ビックリート)で製造した製品です。

年月の流れ	劣化の進行過程	腐食・劣化・変状の進行状態	コンクリートのpH	ビックリートの効果
↓	潜伏期	コンクリート製の下水道用管路が供用を開始する(施工直後)	12~13	硫黄酸化細菌と鉄酸化細菌が活動できない領域(腐食が発生しない領域)
		年単位で時間が経過する(中性化の進行)	11 ↓ 10	
		↓ 下水中にスライムや汚泥が堆積し始める		
		下水中(堆積層)の“硫酸塩還元細菌”によって硫化水素が生成される		
		下水中から管路内(密閉した空気中)に“硫化水素”が放散される		
	進展期	コンクリート表面に生息する“硫黄酸化細菌”と“鉄酸化細菌”が活動し始める	9 ↓ 6	防菌性能を発揮する領域 ビック剤(ニツゲル)の作用領域
		2つの細菌の働きにより、硫化水素が酸化して“硫酸”に変化する		
		硫酸とコンクリートが反応し、“コンクリートの腐食”が始まる		
	加速期	コンクリートの腐食が進行する	6以下	防菌性能を発揮する領域 ビック剤(酸化タングステン)の作用領域
	劣化期	コンクリートが劣化する		



特長

1. 均硫化水素濃度10ppm未満の環境条件において、50年（コンクリートの標準的な耐用年数）以上の耐久性を確保できます。
2. 均硫化水素濃度が10～50ppmの環境条件における腐食の進行を、普通コンクリートの4分の1程度に抑制できます。
3. 黄酸化細菌と鉄酸化細菌以外の微生物への影響、および環境に及ぼす影響はありません。
4. 防菌剤（ビック剤）の混入によるコンクリートの品質への影響はありません。
5. 防菌剤（ビック剤）のコンクリート中における分散性能は一般の混和材と同等です。



詳細はこちら